

第18回昭和の森秋の子ども観察会

大きくなったよ 昭和の森のどんぐり

日 時：2010年10月17日（日）9時30分～12時

花島伸美（千葉市）

参加者：8名（大人4名、子ども4名）

担当指導員：山田、佐野、後藤、山下、木下、小林、花島

心配された雨も降らず、秋のどんぐり拾いに良い一日となった。参加者は、当日キャンセルの方がいて、3班編成から1班編成に変えて、みんなで一緒に歩くことにした。今回は、昭和の森の7種類のどんぐり（カシワ、コナラ、クヌギ、シラカシ、アラカシ、スダジイ、マテバシイ）のどんぐりと葉を拾って、仕分けすることとクラフト（トロのブローチ、どんぐりこま）を中心とした観察会とした。7種類のどんぐりがまとまって見られる「市町村の森」を観察場所に選んだ。

《プログラム1. どんぐり拾いと仕分け》

- ① 子ども達はどんぐりのなる木がどれかわからないと予想し、予めどんぐりのなる木7種類に名札を付けておいた。
- ② 「市町村の森」に着くと、まずカシワの木を見つけた。名札が付いている木と同じカシワの木は周りにないか見渡す。次に落ちている葉を探して特徴を聞いたり、五月の節句で頂く柏餅を包む葉であることを気付かせたりした。また、どんぐりが木のどこになっているか、その木になっているどんぐりと同じものが落ちていないか、など声をかけながら、子ども達にどんぐりと殻斗と葉を拾ってもらった。
- ③ 名札の付いているどんぐりの木を探しながら自由に歩き、どんぐりと殻斗とどんぐりの葉を木の下で拾い、集めた。その合間にシラカシの実生を掘って観察した。
- ④ 次に全員が集まり、仕分けの作業を楽しんだ。まず、葉から仕分けした。一人の子どもが一枚の葉を出して、それと同じものを順番に一枚ずつ出していく。全員の出した葉が同じ種類であるかどうかを確認してから取り分けて横に置く。以下同様に7種類の葉を取り分ける。次に殻斗の付いたどんぐりを1個ずつ出し、同じように7種類のどんぐりに分け、取り分けておく。最後に、葉とどんぐりを組み合わせる。そこで初めて7種類のどんぐりと葉を組み合わせたパネルの絵（図鑑を拡大したもの）を見て合わせていった。絵の通りに葉とどんぐりが組み合せられたら、その上に名前のカードを置き、7種類のどんぐりの仕分けが完成した。

《プログラム2. 「どんぐりのブローチ作り」「どんぐりこま作り」》

- ① それぞれコーナーを作り自由に体験してもらった。

（感想）

- ・ 最初打ち合わせの段階では、7種類のどんぐりを仕分けするのは難しいし、葉も似ていて子ども達には分かりづらいという指摘があった。しかし、分かりづらいということを知つてもらうのも良い機会になるし、その中で葉やどんぐりの特徴をつかむことになると思った。
- ・ 今回もアラカシとシラカシのどんぐりの違いについて子ども達が「帽子からどんぐりがはみ出ている。」「ぶっくりしている。」とアラカシのどんぐりの特徴を表現した。また、マテバシイとコナラの違いについては、同じようにうろこの帽子だけど赤ちゃんがたくさんついているのとついていないのがあると、マテバシイのどんぐりの実の付き方を発見した。葉についても半分ギザギザがある、光っている、筋がある、堅い、色が違う、など様々な表現で葉の特徴を言った。
- ・ 驚いたことに、パネルの絵を見て、7種類のどんぐりの葉とどんぐりを組み合わせるのも子ども達の方からすっと手が伸びてきちんと分け出したし、紙芝居『どんぐり』のなかで、どんぐりの絵が出てくると子ども達の方から名前を言い当てた。7種類の仕分けは多かったが、子どもの構成によって種類を少なくすれば、この作業は子どもも楽しんでできるという多くの指導員の意見であった。仕分けした後は、クヌギにトロの顔を描き、いつもブローチ作りを楽しんだり、コマの回し方競争をしたりして遊んだ。ほんの半日であるが、どんぐりを通して子どもと大人が一緒に楽しめた。「子ども観察会」が終わった後の充実した笑顔が私は好きだ。